

# だい 第6部 か だい 課題

この用紙は、ようし大会当日使用しますので、たいかいとうじつしよう必ずご持参かならください。さん

## だい 第17回 かい まいにち にゅうりよく 毎日パソコン入力コンクール がつたいかい 6月大会 【課題】 か だい 第6部 わぶん 和文B はんしんだいしんさい ねん じゅうたくさいけんしえん じゅうじつ 阪神大震災22年 住宅再建支援の充実を せいげんじかん ふん 制限時間5分

### とうじつ ちゅういじこう 【コンクール当日の注意事項】

- この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
- 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
- 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、平成29年1月17日付、平成28年2月18日付 毎日新聞社説・余録より引用しました。（文字数1,790字程度）

### かだいぶんしょう きんそくもじ 〈課題文章の禁則文字について〉

まいにち にゅうりよく  
毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおりに入力すると正解になります。

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん  
一般社団法人

にほん のうりよくけんていいんかい  
日本パソコン能力検定委員会

こうえん  
後援


そうむしょう  
総務省

もんぶかがくしょう  
文部科学省


こうせいろうどうしょう  
厚生労働省


けいざいさんぎょうしょう  
経済産業省ほか


ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく  
1行35字詰で、つぎの文章を入力してください。


※  の箇所で行 (Enter) してください。


(級表示は、ミスカウント0の場合の入力めやすです)


しゃせつ はんしんだいしんさい ねん じゅうたくさいけん し えん じゅうじつ  
社説：阪神大震災22年 住宅再建支援の充実を 


にほんれっとう じしん かつどう さくねん がつ くもと じしん  
日本列島で地震の活動がやむことはない。昨年だけでも4月に熊本地震、1  
0月には鳥取県で震度6弱の地震などが起きた。避難所生活が長引いた人は少  
なくなかった。被災者の暮らしの再建には安定した住まいの確保が何より重要  
である。  ↑8級


はっせい ねん ↓5級 はんしんだいしんさい やく まんとう じゅうたく ひ がい う 2級 ↓  
きょうで発生から22年たった阪神大震災では約64万棟の住宅が被害を受  
け、ピーク時に約31万人が避難所にあふれた。災害で奪われた生活基盤を回  
復するための公的支援が求められ、議員立法で1998年に成立したのが被災  
者生活再建支援法だ。 


2級 ↓ とうしょ しきゅうがく さいだい まんえん じゅうたく た か つか げんさい しきゅう  
当初の支給額は最大100万円で住宅の建て替えに使えなかった。現在支給  
額は最大300万円に増え、2004年の中越地震などをきっかけに用途の制  
限は撤廃され、手続きも簡素化された。  ↓準1


だが、被災者や被災自治体から改善を求める声が絶えない。支給対象は原則  
として全壊か、大規模補修をしないと住めない半壊だ。被害認定は市町村が判  
断するが、大規模半壊と半壊との線引きは難しい。 

鳥取県など各地の自治体は独自の助成制度を整備し、半壊世帯にも支給する  
ところがある。熊本地震では一部損壊世帯にも補助金を出して救済する自治体  
があった。  ↓1級

まいにちしんぶん ひがし にほんだいしんさい かんとう どうほくごうう ねん くもと じしん ひ さい じ ち  
毎日新聞が東日本大震災と関東・東北豪雨(15年)、熊本地震の被災自治  
体を実施したアンケートでも、半壊世帯まで対象にすべきだという意見が最も  
多かった。過去の災害では、半壊でも修理費用が500万円を超えたケースも  
ある。 

ざいげん かぎ じゅうたくさいけん すず ひ さい ち ふっこう  
財源に限りはあるとはいえ、住宅再建が進まなければ被災地の復興はおぼつ  
かない。半壊であっても損害の実態に応じて柔軟に救済できるような制度を検  
討してはどうか。 

さくねん がつ にいがたけんい い がわ し たい か たい くに し えん ほうてきやう き きょうふう  
昨年12月の新潟県糸魚川市の大火に対し、国は支援法適用を決めた。強風  
による延焼で被害が広がったことが風害に当たると判断した。こうした柔軟な  
運用を今後も望みたい。 

きょだい じしん そな じゅうたく たいしん か じゅうやう はんしんだいしんさい ぎせいしゃ やく わり  
巨大地震の備えには住宅の耐震化も重要だ。阪神大震災の犠牲者の約8割が  
建物の倒壊による圧死や窒息死だった。南海トラフ地震や首都直下地震では耐  
震化率を100%にすれば大幅に被害を減らすことができる。 

ぜんこく じゅうたくたいしん かりつ やく のぼ ぼうさいきょてん じ ち たいちやうしゃ たいしん かりつ  
全国の住宅耐震化率は約82%に上るが、防災拠点の自治体庁舎の耐震化率

は約75%と遅れている。熊本地震では壁が落ちるなどして閉鎖した指定避難所があった。耐震化を急がねばならない。☞

また、地震保険の世帯加入率は約30%にとどまる。阪神大震災を経験した兵庫県の住宅再建共済制度の加入率も9.5%と低調だ。☞

「公助」だけではなく、生命と財産を自ら守る「自助」の意識も高めていき


たい。☞  
毎日新聞2017年1月17日☞

余録：「『さあやるぞ』区切りのコーヒー7杯目」…☞

「『さあやるぞ』区切りのコーヒー7杯目」。第一生命サラリーマン川柳のホームページで歴代作品を見れば、職場でくつろいでしまう方々の句も目立つ。あげくに「わが社でも無駄はないかと俺を見る」という目にもあう▲「打ち合わせ次回の日時を決めただけ」には大きくうなづく方もおられよう。もっとも「静けさや空気読む人 眠る人」ともなれば何やら怖い静寂である。現実には仕事熱心な人がいてこそその手抜きやサボりだろう▲「君の職場は何人くらいの方が働いているの?」「半分ぐらいかな」—は米国のジョークだが、アリの世界でも働きアリのうち2~3割は働かないアリなのだという。今までの研究では働くアリだけのグループを作っても必ず一定の割合で怠けアリが現れるそうだ▲北海道大学などの研究チームは日本に生息するシワクシケアリのコロニー(集団)を観察し、働かないアリは働くアリが疲労した時の交代要員であるのを突き止めた。最初に働いていたアリが疲れて休むようになると、今まで働いていなかったアリが働き始めたのだ▲働くアリだけの集団は一斉に疲れて働けなくなり、減びてしまう。一見非効率な働かないアリは集団の長期的存続には欠かせぬ存在だったのだ。またシミュレーションでは働き度合いがばらばらの集団の方が勤勉なアリだけの集団より生き残りに有利なものも分かった▲「人は皆有用の用を知るも、無用の用を知る莫きなり」。役立たずと思われるものにも大事な役割があるという荘子である。高校の漢文を思い出し、8杯目のコーヒーを飲み始めた方もいるかもしれない。☞


毎日新聞2016年2月18日


1行35字詰で、つぎの文章を入力してください。


※  の箇所で行 (Enter) してください。


(級表示は、ミスカウント0の場合の入力めやすです)


社説：阪神大震災22年 住宅再建支援の充実を 


日本列島で地震の活動がやむことはない。昨年だけでも4月に熊本地震、10月には鳥取県で震度6弱の地震などが起きた。避難所生活が長引いた人は少なくなかった。被災者の暮らしの再建には安定した住まいの確保が何より重要である。 


きょうで発生から22年たった阪神大震災では約64万棟の住宅が被害を受け、ピーク時に約31万人が避難所にあふれた。災害で奪われた生活基盤を回復するための公的支援が求められ、議員立法で1998年に成立したのが被災者生活再建支援法だ。 


当初の支給額は最大100万円で住宅の建て替えに使いなかつた。現在支給額は最大300万円に増え、2004年の中越地震などをきっかけに用途の制限は撤廃され、手続きも簡素化された。 


だが、被災者や被災自治体から改善を求める声が絶えない。支給対象は原則として全壊か、大規模補修をしないと住めない半壊だ。被害認定は市町村が判断するが、大規模半壊と半壊との線引きは難しい。 

鳥取県など各地の自治体は独自の助成制度を整備し、半壊世帯にも支給するところがある。熊本地震では一部損壊世帯にも補助金を出して救済する自治体があった。 

毎日新聞が東日本大震災と関東・東北豪雨(15年)、熊本地震の被災自治体を実施したアンケートでも、半壊世帯まで対象にすべきだという意見が最も多かった。過去の災害では、半壊でも修理費用が500万円を超えたケースもある。 

財源に限りはあるとはいえ、住宅再建が進まなければ被災地の復興はおぼつかない。半壊であっても損害の実態に応じて柔軟に救済できるような制度を検討してはどうか。 

昨年12月の新潟県糸魚川市の大火に対し、国は支援法適用を決めた。強風による延焼で被害が広がったことが風害に当たると判断した。こうした柔軟な運用を今後も望みたい。 

巨大地震の備えには住宅の耐震化も重要だ。阪神大震災の犠牲者の約8割が建物の倒壊による圧死や窒息死だった。南海トラフ地震や首都直下地震では耐震化率を100%にすれば大幅に被害を減らすことができるとされる。 

全国の住宅耐震化率は約82%に上るが、防災拠点の自治体庁舎の耐震化率

---

は約75%と遅れている。熊本地震では壁が落ちるなどして閉鎖した指定避難所があった。耐震化を急がねばならない。☞

また、地震保険の世帯加入率は約30%にとどまる。阪神大震災を経験した兵庫県の住宅再建共済制度の加入率も9.5%と低調だ。☞

「公助」だけではなく、生命と財産を自ら守る「自助」の意識も高めていきたい。☞

毎日新聞2017年1月17日 ☞



余録：「『さあやるぞ』 区切りのコーヒー 7杯目」…☞

「『さあやるぞ』区切りのコーヒー7杯目」。第一生命サラリーマン川柳のホームページで歴代作品を見れば、職場でくつろいでしまう方々の句も目立つ。あげくに「わが社でも無駄はないかと俺を見る」という目にもあう▲「打ち合わせ次回の日時を決めただけ」には大きくうなづく方もおられよう。もっとも「静けさや 空気読む人 眠る人」ともなれば何やら怖い静寂である。現実には仕事熱心な人がいてこそその手抜きやサボりだろう▲「君の職場は何人くらいの方が働いているの?」「半分ぐらいかな」—は米国のジョークだが、アリの世界でも働きアリのうち2~3割は働かないアリなのだという。今までの研究では働くアリだけのグループを作っても必ず一定の割合で怠けアリが現れるそうだ▲北海道大学などの研究チームは日本に生息するシワクシケアリのコロニー（集団）を観察し、働かないアリは働くアリが疲労した時の交代要員であるのを突き止めた。最初に働いていたアリが疲れて休むようになると、今まで働いていなかったアリが働き始めたのだ▲働くアリだけの集団は一斉に疲れて働けなくなり、減びてしまう。一見非効率な働かないアリは集団の長期的存続には欠かせぬ存在だったのだ。またシミュレーションでは働き度合いがばらばらの集団の方が勤勉なアリだけの集団より生き残りに有利なのも分かった▲「人は皆有用の用を知るも、無用の用を知る莫きなり」。役立たずと思われるものにも大事な役割があるという荘子である。高校の漢文を思い出し、8杯目のコーヒーを飲み始めた方もいるかもしれない。☞

毎日新聞2016年2月18日

---